

ふくふくしめじの大きさは光環境の影響を受ける

福島県林業研究センター 林産資源部

1 部門名

林業一食用キノコ栽培方法

2 担当者名

久保智裕

3 要旨

福島県のオリジナル品種ホンシメジである「ふくふくしめじ」は、県内の生産者によって簡易ハウス内で自然環境を活かした栽培が行われているが、発生年によってきのこの形が異なり、きのこの品質の安定化と高品質化が求められている。今回は、ハウスシートの遮光率ときのこの形との関係を調査した。その結果、遮光率の低いハウスでは遮光率の高いハウスと比べて、きのこの傘の直径が茎の長さよりも大きいものが多く発生しており、光環境はきのこの大きさに影響を与えていると考えられた。

- (1) 10月上旬から11月中旬にかけて、遮光率の異なるハウスシート(40%・85%・99%)を使用したハウス内でホンシメジ菌床の発生管理を行った。
- (2) 6~8分開きのきのこの大きさを調査し、ビン毎の傘茎比(傘直径/茎長)を算出した(図1)。その結果、遮光率が40%のハウスでは85%や99%のものと比較して、傘茎比が1を超えるきのこが多く、傘直径が茎長よりも大きいきのこが多く発生していた(図2、3)。
- (3) ハウスシートの遮光率によるハウス内の光環境の違いはきのこの大きさに影響を与えていると考えられ、本成果はふくふくしめじの栽培指導時の参考となる。

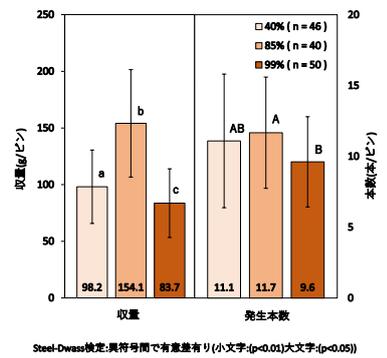
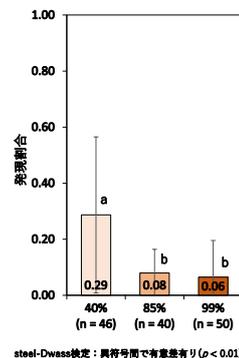
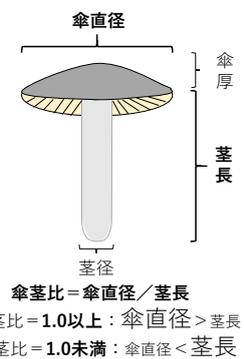


図-1 きのこの調査方法 図-2 遮光率ごとに発生したきのこ 図-3 傘茎比の比較結果 図-4 遮光率ごとの収量

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度~令和7年度
- (2) 研究課題名 ふくしまほんしめじ栽培技術の開発と優良品種選抜

5 主な参考文献・資料

- (1) 貝塚ら, キノコの子実体形成における光の効果について, 農業施設, 24(3), p.161-166, 1993.